

首里城復元の取組について

令和7年6月 国土交通省都市局

首里城復元に向けた取組

- 首里城は、琉球の建築文化や技術の粋を結集した城郭で、琉球王国時代（1429～1879年）は王宮・王府として使用。1925年に正殿が国宝に指定。1945年の沖縄戦で焼失。
- 首里城復元の機運を受け、沖縄復帰記念事業として行う国営公園事業として、平成4年に正殿等を復元。平成12年に世界遺産登録。令和元年10月の火災で正殿等 9 棟の建物が焼失。
- 現在、首里城復元のための関係閣僚会議(議長:内閣官房長官)で決定された「首里城正殿等の復元に向けた工程表」に基づき、令和 4 年11月に首里城正殿の本体工事に着工し、令和 8 年の復元に向けた取組を進めている。

首里城の状況



首里城正殿（火災前）



▲火災直後



現在 (R6.9) の様子 ▶

首里城復元のための関係閣僚会議

首里城正殿等の復元に向け、関係行政機関の緊密な連携の下、政府一体となって対応するため、首里城復元のための関係閣僚会議を開催。

第4回会議（令和2年3月27日）において「首里城正殿等の復元に向けた工程表」を決定。

首里城正殿等の復元に向けた工程表（抜粋）

前回復元時の設計・工程を踏襲することを基本とし、今般の火災を受けて、防火対策の強化及び材料調達の状況の変化等の反映の観点で工程を定めることとする。

首里城正殿について、令和 2 年度（2020年度）早期に設計に入り、令和 4 年（2022年）中には本体工事に着工し、令和 8 年（2026年）までに復元することを目指すこととし、北殿や南殿等を含め復元に向けた取組を進めることとする。その際、復元過程の公開や観光振興など地元のニーズに対応した施策を推進する。

首里城復元のための関係閣僚会議 構成員

議長	内閣官房長官
副議長	内閣府特命担当大臣（沖縄及び北方対策） 国土交通大臣
構成員	総務大臣、財務大臣、文部科学大臣、農林水産大臣

正殿の復元概要

「首里城復元に向けた技術検討委員会」での検討を踏まえた正殿の復元概要

○建築概要

建築物の名称	首里城正殿
構造形式	木造重層3階建て、入母屋造、本瓦葺
建築面積	636.56㎡
延べ面積	1199.24㎡ (1階516.86㎡、2階516.86㎡、3階165.52㎡)

○正殿の復元の主なポイント

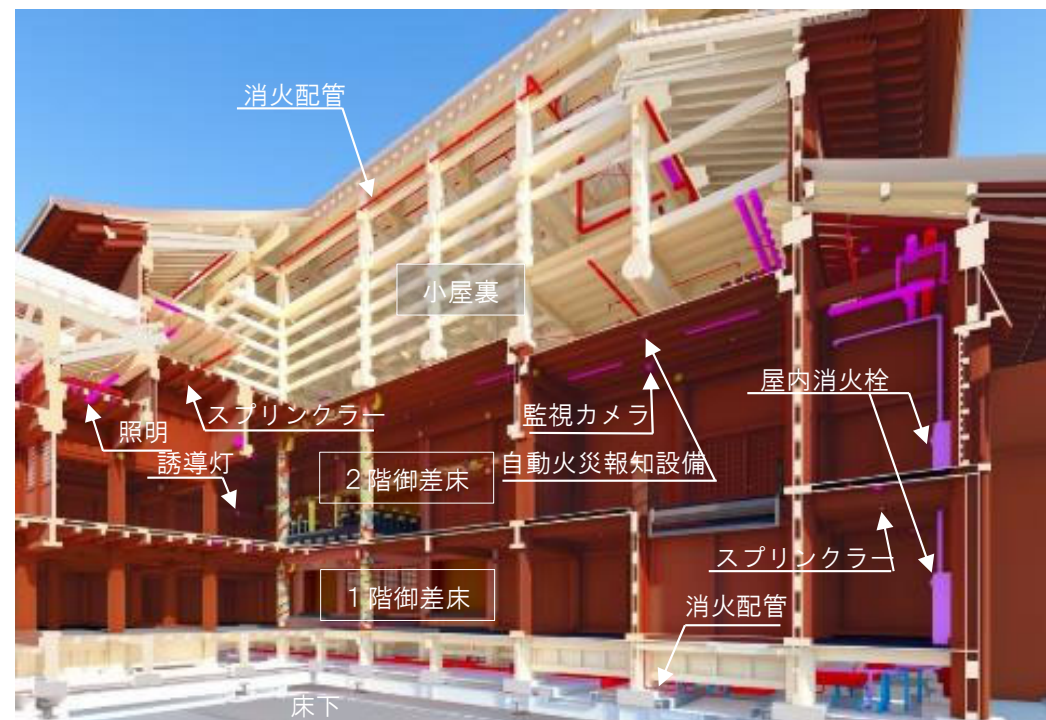
<防火対策の強化>

(主な防災・防火設備)

- ・ 火災感知器と連動し、自動旋回して火災を映す監視カメラ
- ・ 誤作動防止機能付きのスプリンクラー
- ・ 消火用の水を城郭内に送る連結送水管
- ・ 1人でも使える易操作性の屋内消火栓
- ・ 煙の濃度に合わせ感知できるアナログ式煙感知器 等

<材料調達の状況の変化等の反映>

- ・ 構造材は国産ヒノキを原則とし、一部にイヌマキ、オキナワウラジログシを使用。台湾産ベニヒを彫刻材に使用。
- ・ 赤瓦には、沖縄本島産の材料を使用するほか、一部に正殿の破損瓦を粉碎（シャモット）して再利用。
- ・ 彩色・彫刻は、塗装材に久志間切弁柄や久米赤土、石彫刻に細粒砂岩を始めとした県産の材料を活用。



正殿内部の主な防災・防火設備



県内瓦組合にて
焼き上がった赤瓦



久志間切弁柄
(試し塗りの様子)

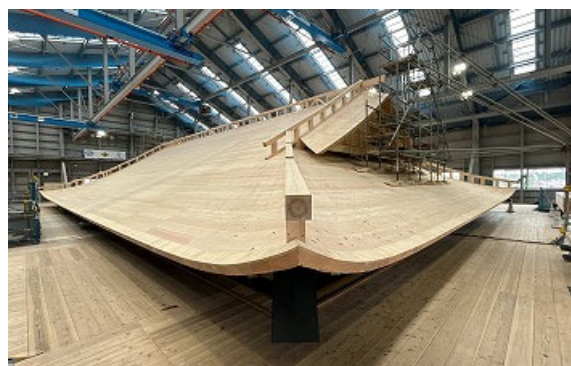
令和6年度の首里城復元に係る取組

- 正殿の屋根、軒廻りの木工事を進め、令和6年5月末に上棟が完了。その後、瓦工事に着手し12月末までに完了。内外装や唐破風廻り造作工事、塗装等を順次進めている。
- 素屋根見学エリア（1階～3階）等を活用し、正殿の工事の進捗に応じた展示の充実等を行い、見せる復興を推進。
- 正殿完成後に整備を行う北殿の基本設計に着手。

○木材倉庫・素屋根(R6.9)



○正殿屋根の上棟(R6.5)



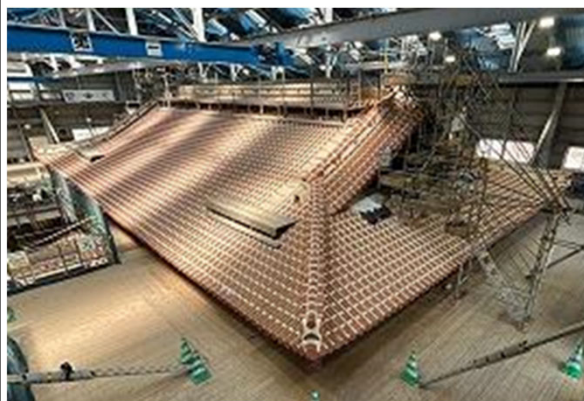
○沖縄県から納入された「唐破風妻飾」(上)、向拝奥の彫刻物「獅子」「牡丹に獅子・唐草」(下)(R7.1)



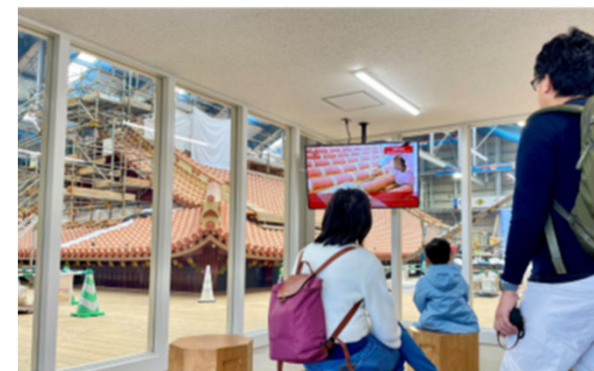
○上塗(赤色)作業の状況(R7.1)



○正殿3階の現状(R7.2)



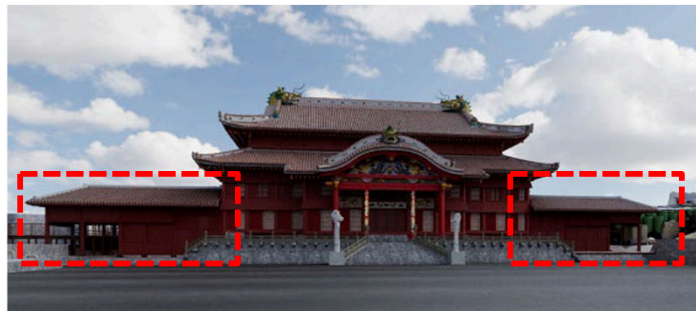
○素屋根見学エリア3階の様子



令和7年度の首里城復元に係る取組予定

- 正殿本体は、引き続き、内外部の塗装・彩色を進め、彫刻類を設置予定。10月末を目途に木材倉庫・原寸場及び素屋根を解体し、両廊下、仮設エレベータ棟の整備、正殿廻りの送水管等の防火対策工事を実施予定。
- 素屋根見学エリアの供用は6月に終了予定。素屋根解体後の正殿を展望できるよう見学デッキを改修する等、引き続き見せる復興を推進。
- 北殿の実施設計に着手予定。

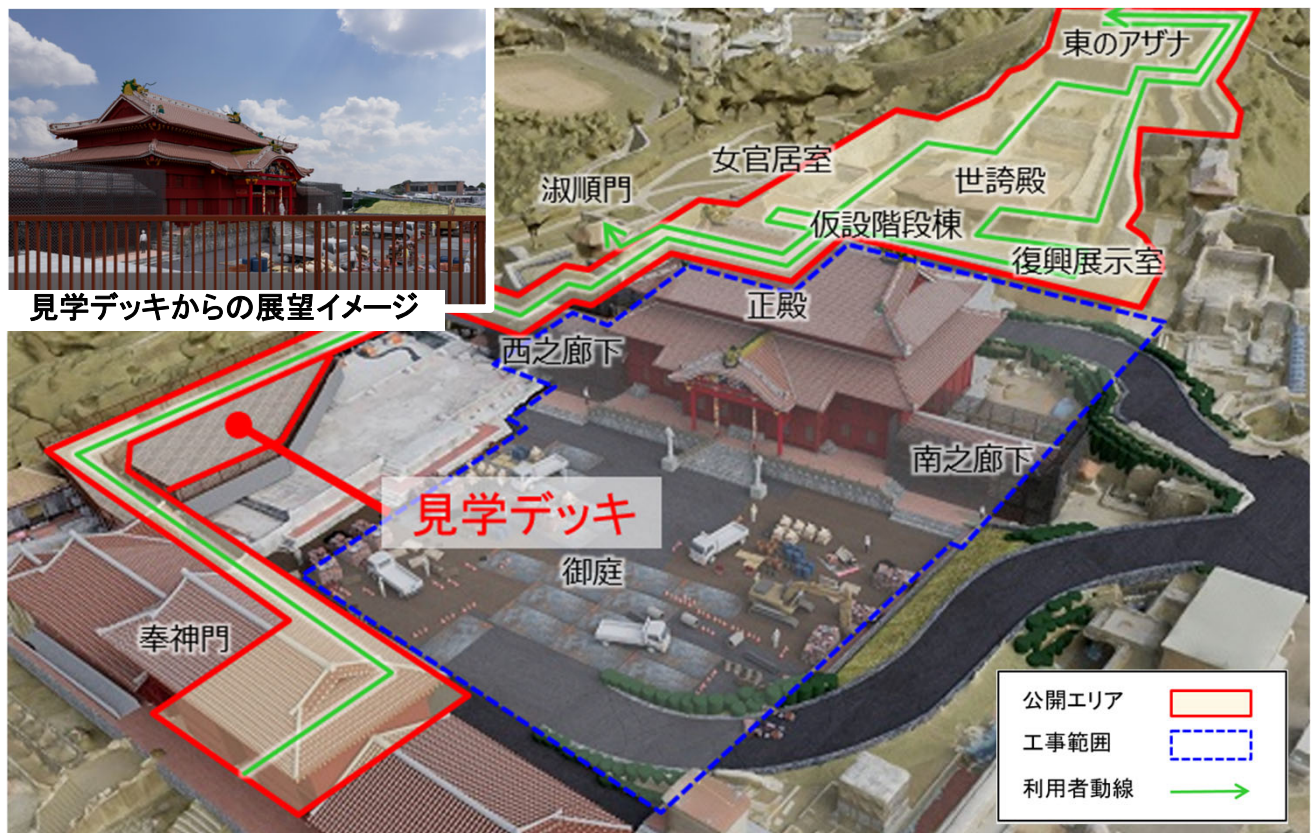
○素屋根撤去後施工予定の両廊下イメージ



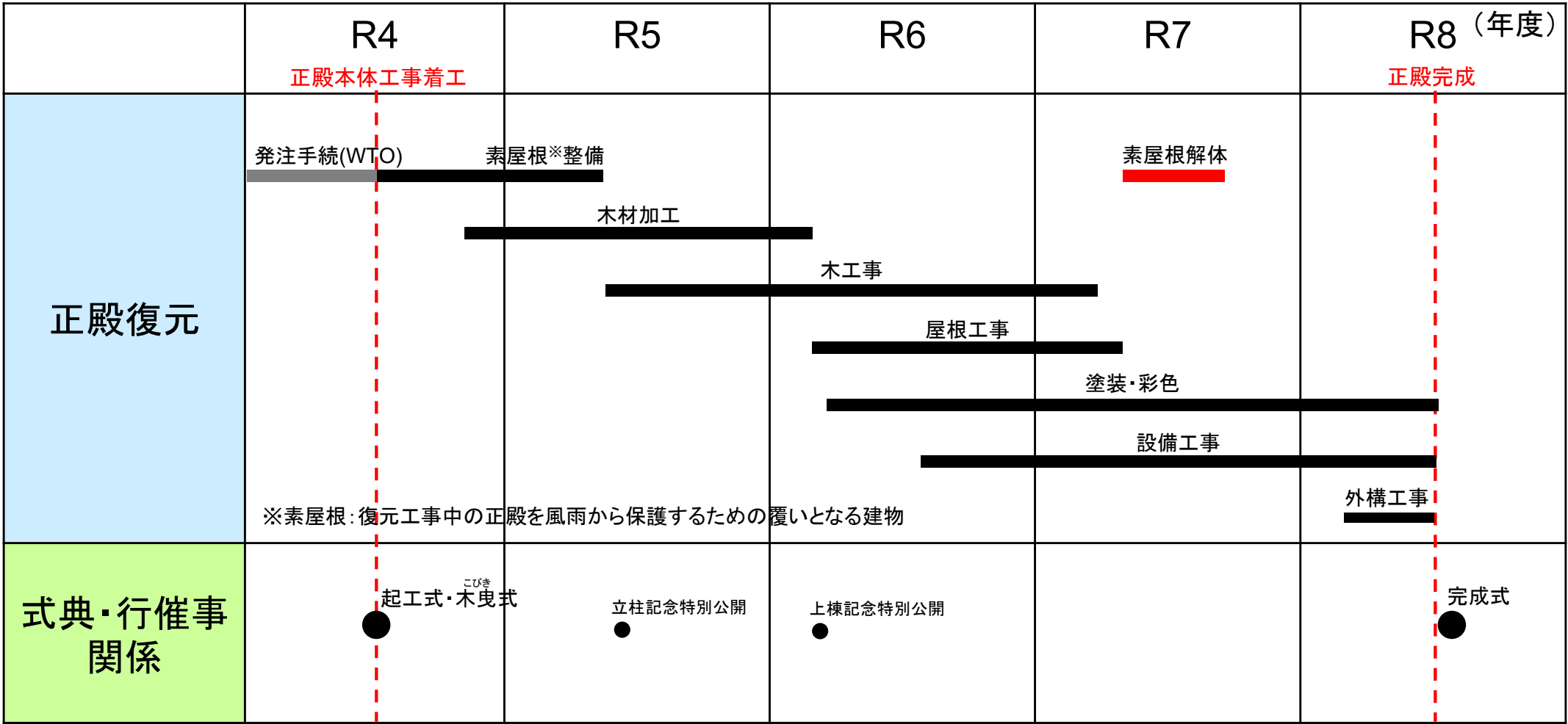
○仮設エレベータ棟のイメージ



○素屋根撤去後の見学ルートイメージ



- 首里城正殿は、令和4年11月3日の起工式を経て本体工事に着工し、令和8年秋に完成予定。工事期間中は復元工事の過程の公開等を実施。
- 令和7年7月には正殿外部工事が完成し、素屋根解体工事を開始予定。素屋根解体後に正殿周辺の防火対策工事等を実施予定。



【参考】首里城正殿等の復元に向けたスケジュール

(年度)

		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9 以降
正殿	材料調査 (大径材)	<u>市場調査</u>						令和2年3月27日 「首里城正殿等の復元に向けた工程表」(抜粋)		
	設計		<u>基本設計</u>	<u>実施設計</u>						
	木材調達 (大径材)			<u>調達・乾燥</u>						
	工事	<u>仮設道路</u> <u>がれき撤去</u>		<u>木材倉庫</u>	<u>発注手続(WTO)</u>	<u>本体工事</u>				
北殿、南殿等		<u>撤去</u>		<u>正殿復元の施工ヤードとして使用</u>			<u>工事</u>			
		<u>検討</u>								